

授業科目名(英文名)bbb / Course title	人材開発政策ゼミナール				
担当教員(所属) / Instructor	馬 駿(経済学部経営学科)				
授業科目区分 / Category	専門教育科目 グローバルSDGs専門科目				
地域課題解決型人材育成プログラム科目 / COC+Course	-	授業種別 / Type of class	演習科目		
開講学期期限 / Period	2022年度 / Academic Year 第3ターム / Term 3 水/Wed 6	対象所属 / Eligible Faculty			
時間割コード / Registration Code	D43348	対象学年 / Eligible grade	1年 ,2年	単位数 / Credits	1単位
ナンバリングコード / Numbering Code					
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	馬 駿(majun@eco.u-toyama.ac.jp)				
オフィスアワー(自由質問時間) / Office hours	馬 駿(毎週月曜日10:30~12:00、なお事前にメールにてアポイントメントをとってから研究室に来てください。  Monday, 10:30~12:00 Please make an appointment by email before coming to the office.)				
Moodleコース統合時間割コード / Moodle course join Registration Code					
Moodleコース登録教員名 / Moodle course registered Instructor					
MoodleコースURL / Moodle course URL					
各種教育プログラム1 / Various Educational programs1					
各種教育プログラム2 / Various Educational programs2					
各種教育プログラム3 / Various Educational programs3					
各種教育プログラム4 / Various Educational programs4					
各種教育プログラム5 / Various Educational programs5					
リアルタイム・アドバイス / Real-time advice	更新日				
初回はこの授業のガイダンスを行います。					
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け(一般学修目標) / Course Objectives	教育目標 / Educational Goals				
この演習のねらいは次の2点にあります。 (1) ケーススタディを通して、人材開発とインセンティブに関する基本理論を理解する。 (2) 企業における人材開発の仕組みに関するケーススタディを行いながら、専門知識だけではなく、人材開発の仕組み構築に関する能力を身につける。					
達成目標 / Course Goals					
次の能力の向上を目指します。 (1) 人材開発に関する理論を駆使して人材開発の仕組みを構築する能力 (2) 人材開発の効果を分析する能力					
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class schedule					
基本的には、文献研究とケーススタディを中心に行いますが、前半は人材開発に関する理論を学びます。後半はケーススタディを通して、人材開発政策の策定について学びます。 具体的に、以下の計画で進めていく予定である。 第1回 人的資本理論 第2回 インセンティブ理論 第3回 人材開発に関する国際比較 第4回 ケーススタディ：企業の製品開発と人材開発 第5回 ケーススタディ：人材開発とインセンティブ 第6回 ケーススタディ：人材開発と人材マネジメント 第7回 総括：人材開発政策の課題					

授業時間外学修（事前・事後学修） / Independent Study Outside of Class	
事前配付した資料を丁寧に読み、課されたレポートを提出したうえ、ゼミに参加すること。（事前学習 3 時間程度、事後学習 3 時間程度）	
キーワード / Keywords	人的資本、能力開発、OJT、Off-JT、インセンティブ、外部労働市場、企業内部労働市場
履修上の注意 / Notices	ゼミで積極的に発言すること。 レポートを提出すること。
教科書 / Required Text	
参考書 / Required Materials	
教科書・参考書に関するその他通信欄	文献やケースなど、ディスカッションに必要な教材を演習の 1 週間前までに配布する。 参考書： Neal E. Chalofsky, Tonette S. Rocco and Michael Lane Morris Editors, Handbook of Human Resource Development, Wiley, 2014.
成績評価の方法 / Evaluation	報告内容（30%）、ディスカッションへの貢献度（40%）+ 授業内レポート（30%）。 なお、報告内容については、事前に準備したレジюмеの内容とプレゼンテーションのわかりやすさ、ディスカッションへの貢献度については、授業中の発言の回数と内容、授業内のレポートについては、文献に対する理解度と自分の考えの論理性をそれぞれ評価基準とします。  但し、無断欠席 1 回で不可になることがあります。
関連科目 / Related course	経営学特論 、経営学特論 、組織と人材のマネジメントゼミナール 、組織と人材マネジメントゼミナール
リンク先URL / URL of syllabus or other information	
備考 / Notes	

授業計画詳細 / Course schedule

回(日時) /Time (date and time)	主題と位置付け(担当) /Subjects and instructor's	学修方法と内容 /Methods and contents	備考 /Notes
第1回	ソフト開発企業の人材マネジメント(1)	担当者はケースを熟読したうえ、参加者に問題を提示し、ディスカッションをリードする	参加者が事前にケースに関するレポートを提出したうえ、演習に参加する
第2回	ソフト開発企業の人材マネジメント(2)	担当者はケースを熟読したうえ、参加者に問題を提示し、ディスカッションをリードする	参加者が事前にケースに関するレポートを提出したうえ、演習に参加する
第3回	携帯電話製造企業の製品開発と人材マネジメント(1)	担当者はケースを熟読したうえ、参加者に問題を提示し、ディスカッションをリードする	参加者が事前にケースに関するレポートを提出したうえ、演習に参加する
第4回	携帯電話製造企業の製品開発と人材マネジメント(2)	担当者はケースを熟読したうえ、参加者に問題を提示し、ディスカッションをリードする	参加者が事前にケースに関するレポートを提出したうえ、演習に参加する
第5回	液晶テレビ製造企業の製品開発と人材マネジメント(1)	担当者はケースを熟読したうえ、参加者に問題を提示し、ディスカッションをリードする	参加者が事前にケースに関するレポートを提出したうえ、演習に参加する
第6回	液晶テレビ製造企業の製品開発と人材マネジメント(2)	担当者はケースを熟読したうえ、参加者に問題を提示し、ディスカッションをリードする	参加者が事前にケースに関するレポートを提出したうえ、演習に参加する
第7回	製品開発と人材マネジメントに関する論文を読む(1)	報告者は論文の内容を報告した上、全体ディスカッションを行う	参加者が事前に論文に関するレポートを提出したうえ、演習に参加する
第8回	製品開発と人材マネジメントに関する論文を読む(2)	報告者は論文の内容を報告した上、全体ディスカッションを行う	参加者が事前に論文に関するレポートを提出したうえ、演習に参加する
第9回	修士論文提出予定者の論文報告(1)	報告者は自分の修士論文のフレームワークを報告し、全体ディスカッションを行う	参加者は事前に自分の研究テーマに沿って研究計画を提出したうえ、演習に参加する
第10回	修士論文提出予定者の論文報告(1)	報告者は自分の修士論文のフレームワークを報告し、全体ディスカッションを行う	参加者は前回の議論をふまえ、研究計画を見直して再度提出したうえ、演習に参加する
第11回	修士論文提出予定者の関連文献レビュー(1)	報告者は自分の研究と関連する論文をまとめたうえ、報告し、全体ディスカッションを行う	参加者は事前に少なくともその中の1つの論文に関するレポートを提出した上、演習に参加する
第12回	修士論文提出予定者の関連文献レビュー(2)	報告者は自分の研究と関連する論文をまとめたうえ、報告し、全体ディスカッションを行う	参加者は事前に少なくともその中の1つの論文に関するレポートを提出した上、演習に参加する
第13回	人的資源管理に関する論文を読む	経営学に関する学術論文の作成方法を中心にディスカッションを行う。	参加者は事前にその論文を読み、学術論文の書き方を留意しながら、その論文に対する論評を提出したうえ、演習に参加する
第14回	修士論文提出予定者の内容報告(1)	報告者は自分の論文内容を報告し、全体ディスカッションを行う	参加者は報告者が事に配布した資料を読み、それに対する意見を提出した上、演習に参加する
第15回	修士論文提出予定者の内容報告(2)	報告者は自分の論文内容を報告し、全体ディスカッションを行う	読み、それに対する意見を提出した上、演習に参加する

授業追加情報 / Course add information

使用言語 / Language	日本語, English
アクティブ・ラーニングの実施 / Active learning	実施あり
アクティブラーニングの実施内容 / Contents of Active learning	ケーススタディ
実務経験教員科目 / Work Experience teacher's subjects	
データサイエンス科目 / Data Science subjects	
他学部・他研究科等学生の履修可否 /	履修可